第２学年１組　国語科学習指導案

指導者　藤田晋作

２年１組教室　（男子１１名　女子８名）

１　日時　　令和元年９月２６日（木）　第５校時

２　単元名　　昔話とたくさんふれあおう　～「かさこじぞう」～

３　単元の目標

（１）物語の場面を分け、じいさまとばあさまのしたことを読み取り、場面ごとのそれぞれの様子や気持ちを考えながら読むことができる。（知識・技能）

（２）・登場人物の心情について、互いの読みを伝え合うことを通して、自分の考えをもつことができる。
・昔話のおもしろさを見つけ、紹介カードに書いたり、カードを読み合い、よいところを伝え合ったりすることができる。（思考力・判断力・表現力等）

（３）いろいろな昔話の中から、読みたい本を選び、楽しんで読むことができる。（主体的に学習に取り組む態度）

４　指導にあたって

こんな子どもたちを

・前単元「お手紙」では、場面のまとまりを意識しながら、登場人物がしたことを読み取り、そのときの様子や気持ちについて、自分なりの読みをもつことができるようになってきた。
・気づきや自分の思いを、主体的に伝えることができる子どもとできない子どもの差が広がってきた。
・ほとんどの子どもたちは、「つるの恩返し」「かぐや姫」「一寸法師」「金太郎」などの昔話を知らない。本単元「かさこじぞう」の内容についても、１人も知らない。

本教材「かさこじぞう」は，時と場所によって場面が分けられ、じいさまの行動を中心に読むことのできる物語である。初めは、貧乏でお正月に餅の用意もできないじいさまとばあさまが、じぞうさまにかさをかぶせるという優しさによって贈り物を授かり、よい正月を迎えるという話である。また、昔話特有の言葉や表現による語り口調も楽しめる。昔話の典型にも近く、他の昔話を読む活動にも展開しやすい教材であると言える。

単元の導入として，昔話に興味をもたせるために、図書館支援員の方による読み聞かせの場を設けたり、南館に「昔話の絵本コーナー」を設けたりする。昔話は、「前話・いろいろな出来事・山場・後話」から構成されることを知らされた子どもたちは、「かさこじぞう」の場面構成にも興味をもち、地蔵様が恩返しをした理由に注目して物語を読み進めていくだろう。じいさまとばあさまが、それぞれの場面でどのような行動をしたのかていねいに読み取っていくなかで、「じぞうポイント（地蔵様が米やもちこを持って来てくれた理由）」についても抑えていく。「じぞうポイント」がたくさんあったからこそ、じいさまとばあさまはよいお正月を迎えられたことを視覚的にも捉えられる掲示を工夫していきたい。また、「かさこじぞう」の学習と並行して、他の昔話についても主体的に読書する姿を期待する。そこで、読んだ昔話について、作品名や登場人物などが記録できる「昔話紹介カード」を用意し、掲示していく。さらに、カードを紹介する場を適宜設けていくことで、いろいろな昔話にふれてみたいという思いがいっそう強くなるであろう。単元の終末では、自分が作成したたくさんのカードの扱いについて、子どもたちに考えさせる。「友達と発表し合いたい」「１番気に入ったカードを、『えほんのへや』に飾りたい」「１年生の子に読んで聞かせてあげたい」など、子どもたちの主体的な学びを認めていきたいと考える。

本時は，じいさまが家に帰った場面でのばあさまの気持ちについて、自分の読みを伝え合う場面である。「じいさまが家に帰った場面でのばあさまは、どんな気持ちかな？」という主発問に対し、子どもたちは、ばあさまの優しさについて第５場面全体から考えるであろう。さらに、第２場面でじいさまを町に送り出したばあさまの気持ちを想像させたうえで、じいさまが家へ帰ってきた場面を動作化させることで、ばあさまが本当に心の優しい人であることを感じ取らせたい。互いの読みを伝え合ったり、動作化したりすることを通して、自分の考えを深めていく姿を期待する。

こんな子どもたちに

・自分の読みを主体的に伝える子
・互いの読みを伝え合うことを通して、自分の考えをもつことができる子
・いろいろな昔話に興味をもち、すすんで読む子